

「(仮称)教育推進プラン・江東(第3期)」パブリックコメント 意見一覧

No	分類	意見要旨	回答
1	全般	指標で目標値を定めている点はよいが、第2期の目標達成状況が示されていない。評価を行うことが大事。	教育委員会では、毎年、主な施策への取組状況について点検及び評価を行い、課題や今後の方向性を明らかにして必要に応じた調整や見直しを図ることとしています。第2期プランの最終年度である令和7年度の点検及び評価は、令和8年度に実施予定です。
2	テーマ1 学び・育ち	「主体的で対話的は深い学び」は言及されているが、探求学習についてはほとんど言及がない。探求学習の推進に読書活動の充実が不可欠であり、かつ子どもたちの最も身近な施設・設備である学校図書館に対する計画がない。学校図書館の充実も検討してほしい。	「江東区立図書館ビジョン【令和8年度～13年度】」に基づき、各校における読書活動を推進し、学校図書館における課題解決を図ってまいります。
3	テーマ1 学び・育ち	小学校で国歌を教えていないことが疑問。しっかり教えてほしい。	各学校で、学習指導要領に則って指導を実施しております。
4	テーマ1 学び・育ち	子どもが、放課後に一人一台の端末でSNSやネットサーフィン等をしている様子を見かける。時間や通信量の制限等、デジタルから離れる時間を作る対策を要望する。	各学校では、児童の考えを取り入れながら「学校SNSルール」を定めており、子どもが主体的に使用時間を守ることができることを目指しております。引き続き、学習者用端末の適切な活用に向けて、情報モラル教育を推進してまいります。
5	テーマ1 学び・育ち	遊具の素材、高さ、安全性に配慮した公園の整備を進めてほしい。	本区では、国土交通省「都市公園における遊具の安全確保に関する指針(改訂第3版)」(令和6年6月)及び一般社団法人日本公園施設業協会「遊具の安全に関する規準JPPA-SP-S:2024」(令和6年4月)に基づき、公園改修時には素材や高さなども含めた安全性に配慮した遊具への改修を行っています。今後も安全な遊具の整備、改修を進めてまいります。
6	テーマ1 学び・育ち	国歌を教えない学校がある。日本に住んで成長する時に、人種を問わず、国歌は伝えるべき。	各学校で、学習指導要領に則って指導を実施しております。
7	テーマ1 学び・育ち	「就学前教育スタンダード」を掲げ、その理念に基づき、区立幼稚園において子どもの主体性や意欲、他者との関わりといった非認知能力を大切にされた教育が行われていることを評価する。幼児期のこのような経験は子どもの土台を育てる上で非常に重要であり、今後も大切にされるべきと考える。	区立幼稚園では、これまでも幼児教育の実績を有するとともに、子どもたちの遊びを中心とした質の高い保育を行ってまいりました。今後も「就学前教育スタンダード」に基づいた教育の充実を図ってまいります。
8	テーマ1 学び・育ち	一方で、小学校に入学すると「目に見える形での力」が求められる場面が急激に増え、幼児期の教育との変化に戸惑いが生じていると感じる。幼児教育の価値を十分に生かすため、幼稚園と小学校の教職員の間で共通理解を深める必要がある。	公立幼稚園の中には小学校との併設園もあり、これまでも小学校との連携や教育の円滑な接続を進めてまいりました。また、「江東区連携教育の日」を設定し、連携教育の重要性について理解を深めているところです。今後も幼稚園、小・中学校・義務教育学校が連携した教育の充実を図ってまいります。
9	テーマ1 学び・育ち	幼稚園では、障害のある子どもへの個別支援計画が、現場で十分に共有・理解されていないと感じる。個別支援計画の目的や運用について、より一層の周知と研修の充実を求める。	障害のある子ども一人一人に寄り添う支援を大切にしています。区立幼稚園では、幼児期から学齢期への支援の連続性を図るため、各園の特別支援教育コーディネーターを担っている教員を対象とした研修を実施しており、引き続き幼児期からの連続した特別支援体制の理解促進のため教員研修の充実を図ってまいります。
10	テーマ1 学び・育ち	平和教育について、記載がない。戦争の実態や記憶を江東区の教育に生かし、平和教育に取り組んでほしい。	平和教育については、学習指導要領に基づき各校の実態に応じて実施しており、今後も適切に実施してまいります。

No	分類	意見要旨	回答
11	テーマ1 学び・育ち	ジェンダー平等について取り上げ、一人一人の違いを理解し、他の人の人権を認めることが大事ということを具体的に記載してほしい。	性の多様性などについては、人権尊重を基盤とする中で人間関係や幅広いテーマとともに体系的に学ぶものであると認識しており、今後の学習指導要領改訂の動向等も踏まえながら検討をしております。
12	テーマ1 学び・育ち	子どもたちが性被害にあわないようにするためにも性教育は必要。	各学校では学習指導要領に基づき年間指導計画を作成し、「生命の安全教育」を実施しています。今後も、子どもたちの実態に応じた性教育を実施してまいります。
13	テーマ1 学び・育ち	子どもが自ら意見を言うことが必要と考えているため、発言しやすい環境を整えることが必要。	「KOTOこどもかがやきプラン」や「江東区こどもの権利に関する条例」のとおり、子どもたちが意見を表明できる環境は大切だと考えています。今後も、各校で子どもたちが自らの意見を表現しやすい環境を整えてまいります。
14	テーマ1 学び・育ち	最初の学習でつまずき、学習意欲が無くなる状況が見られるため、学年等を問わずいつでも基礎に戻って学べる機会が必要。	各種調査の結果を基に一人一人の習得状況を把握し、一斉指導だけでなくICT機器等を活用した個に応じた指導を充実してまいります。
15	テーマ1 学び・育ち	ICTの活用と並行してリアルな体験が必要であり、チャレンジウェンズデーが探求の入口となるよう専門的な支援があると良い。	今後も学校における体験的な学習を充実させるとともに、チャレンジウェンズデーにはこどもの興味・関心に応じた活動を子ども自身が選択できるような取組を推進してまいります。
16	テーマ2 自分らしさ	外国の文化を知ることが計画に盛り込まれているが、日本の文化や礼儀について体験したい、知りたいということについて、俳句教育以外にも取組が多数必要と考える。	本区では、日本文化や礼儀などを含む地域や文化、スポーツなど各学校・地域の特性に合わせて「特色ある学校づくり」事業を実施しています。各校の状況に応じて、伝統文化等に関する体験活動の充実を図ってまいります。
17	テーマ2 自分らしさ	区内の情緒障害等特別支援学級は小中学校各1校のみの設置で、通級指導教室の受け入れ枠も限られている。このため、支援を必要としていても適切な教育的支援につながりにくい状況がある。	区では「江東区特別支援教育検討委員会」を設置し、特別支援教育の各種検討課題に対して優先順位を踏まえながら対応しています。特別支援学級の増設についても検討事項のひとつになっており、引き続き委員会の中で検討してまいります。 また、令和6年4月より、特別支援教室の拠点校を小・中学校共に2校増設しており、引き続き支援の充実を図ってまいります。
18	テーマ2 自分らしさ	不登校児童の校内別室指導の体制が、全ての学校に整備されていないことが課題。	令和7年度より、区内すべての小・中学校に校内別室の体制を整えています。今後も「KOTOこどもかがやきプラン」に基づき、校内別室での支援の充実を図ってまいります。
19	テーマ2 自分らしさ	教職員や支援員の配置が十分でなく、保護者への負担や家庭の事情に不公平さにつながっている。配置基準や運用の見直しを含めた人的支援の充実を強く求める。	教職員は、都の基準を基に適正に配置しています。また、区では、小学校及び中学校の各校に学習支援員を配置しており、多様化する支援ニーズに応えられるよう適正配置を進めてまいります。
20	テーマ2 自分らしさ	外国人の保護者が増え、学校からの連絡や重要さが十分に理解されていないと感じる。やさしい日本語の使用や、重要さがわかるように明確な表示をするなど、国籍に関係なく情報が確実に伝わる工夫が必要。	令和7年8月に日本語指導時の配慮すべき点や翻訳ツールの活用方法などに関する小中学校教員向け講習会をオンラインで開催し、その講習内容を録画したものを全学校向けに、いつでも何度でも視聴できるように公開しています。今後、授業や学校生活上の意思疎通、日本語理解の支援に向けた翻訳ツール等の活用について検討し、導入を目指してまいります。 また、学校からの情報発信については、一斉連絡システムやホームページの活用など工夫してまいります。

No	分類	意見要旨	回答
21	テーマ2 自分らしさ	特別支援学級が学校選択制度の対象外となっているため、必要な支援を受けるために遠方の学校への通学を余儀なくされている子どもがおり、居住地域で学ぶ権利や等しく教育を受ける権利について差別的な取り扱いに当たらないか懸念がある。	特別支援学級においては、支援が必要な子どもを地域で支えるという点から、現在、学校選択制度の導入はしていませんが、障害の状況等を丁寧に聞き取った上で、就学先の学校について保護者や本人の意向を尊重し柔軟に対応しています。なお、就学相談中の児童生徒についても、通常学級へ入学する場合に通学区域外の学校への入学を希望する場合は、学校選択制度の対象として、学校選択希望票の提出をお願いしています。
22	テーマ2 自分らしさ	特別支援を「特別」とせず、誰でも支援が必要な時があることが認識されると良い。	ユニバーサルデザインに基づく教育環境の整備や合理的配慮に関する理解促進など、誰もが必要な支援を受けられる体制の充実を進めてまいります。また、共生社会の実現に向け、人権尊重の理念に基づき自他の大切さを認め、互いに尊重しあう態度を育む教育の充実を図ってまいります。
23	テーマ2 自分らしさ	言語だけではなく、多様なコミュニケーションや表現が認知されることが必要。	多様性を認め合える心をはぐくむ教育の充実を図ってまいります。
24	テーマ2 自分らしさ	少人数教室や別室登校等の確保のため、学校の予備教室の拡充や学校外施設を活用する。	改築に合わせて、少人数学習に対応した教室を整備するほか、教室数についても児童推計等を踏まえ、適正な整備をしてまいります。
25	テーマ2 自分らしさ	独立したユースセンター等、異年齢との関係が持てる場づくりが必要。	区では次の2点の事業を行っております。 ①青少年交流プラザ事業 青少年交流プラザでは学年が限定されないイベントの実施や、異年齢により構成されるサークル等が活動できる場を提供しています。 ②ジュニアリーダー講習会事業 「ジュニアリーダー」とは、子ども会などの活動や遊びのリーダーとなるお兄さん・お姉さんのことで、子どもまつりや地域行事、少年キャンプなどで活躍します。ジュニアリーダーになるためには初級講習会（小学5年生～中学1年生まで）、中級講習会（小学6年生～高校3年生まで）を受講して修了するとジュニアリーダーとして認定されます。 ※中学1年生～25歳までがジュニアリーダー現役世代。それ以上はOB・OGとして現役世代をサポートします。
26	テーマ3 環境	学校以外での学びの場や遊べる場が少ない。公園の敷地等を活用して児童館を建てる等、子どもが集える場所を整備してほしい。	児童館は、区内各地に17館を整備し、各地域で乳幼児から中・高校生世代までの子どもたちが、遊びや運動、学び等を行う居場所となるよう事業を展開しています。引き続き、子どもたちが地域の児童館を認知し、利用してもらえるよう周知を図るとともに、魅力ある事業の展開に努めてまいります。
27	テーマ3 環境	校舎の改築に伴う仮校舎への通学にあたって、従来よりも大幅に通学時間が延びている児童がいる。直線距離が2キロ以下の学校の場合は徒歩通学という基準が適用されているが、区の都合により通学環境が大きく変化している場合は、柔軟な対応が必要ではないか。猛暑や気候変動の影響を考慮すると、長時間の徒歩通学は児童の健康や安全に対する影響も懸念される。	徒歩通学の規定の見直しは今のところ予定していませんが、昨今の猛暑日の増加を踏まえて令和8年度から夏休みを一週間延長するほか、児童の健康観察、こまめな水分補給、日陰歩行や帽子着用の指導を引き続き実施し、熱中症による事故防止を図ってまいります。
28	テーマ3 環境	江東きッズクラブの専用施設確保と職員の質の向上を図り、子どもたちがのびのび遊べる環境を確保してほしい。	育成室については、小学校の改築・増設時に育成室を確保することや、廃園となった幼稚園の跡地を活用して専用の育成室とするなどの取り組みを行い、育成場所の確保を行うとともに、巡回指導及び職員研修等を通じて、職員の質の向上を図ってまいります。

No	分類	意見要旨	回答
29	テーマ3 環境	きっずクラブの職員による盗撮事件を受け、区主催で民間委託事業者を含むすべての職員に研修を実施してほしい。	毎年実施している公営・民営きっずクラブ職員を対象とした研修の更なる充実を図ってまいります。
30	テーマ4 つながり	P T Aは任意加入であるにもかかわらず、教材費口座から会費の自動引き落としがされるなど事実上加入が前提となる運用がある。任意性が正しく担保される仕組みへの見直しを求める。	P T Aは任意の団体であり、入退会等については保護者の自由意思に基づき、個々に判断されるものと認識しています。この認識に基づき、P T Aの運営に関して事前の意思確認の必要性等をP T Aや学校・園に対して引き続き周知してまいります。
31	テーマ4 つながり	教員がこどもと向き合う時間を十分に確保できるよう、学校外での業務負担軽減が必要。	「江東区立学校における働き方改革推進プラン」に基づき、校外における教員研修の精選、研修時間の遵守など、教員の負担軽減に向けた取組を推進してまいります。
32	テーマ4 つながり	学校ボランティアに参加したが、ボランティアを仕事として考える人が多いと感じる。みんなが気持ちよく参加できる環境にしてほしい。	幅広い地域住民等が参画し、緩やかなネットワークを形成することにより、地域全体でこどもたちの学びや成長を支えていく体制づくりに取り組んでまいります。
33	テーマ4 つながり	革新的な地域協働やコミュニティスクールの発展のため、小学校以降のつながりを地域で継続することや、地域コーディネーターに加えて社会教育士のネットワークを構築する。	各学校の特徴や地域の状況に合わせて、幅広い地域住民等の参画を得ながら、地域と学校が相互にパートナーとして連携・協働していく地域学校協働活動を引き続き推進してまいります。
34	その他	ウェルビーイングな人生100年を送れる社会とつながれる人が育つよう、こどもだけではなく大人への積極的な提言も必要。	教育広報紙「こうとうの教育」や学校ホームページなど様々な媒体を活用し、区の取組や考え方を積極的に周知してまいります。